

組 取 の 報 告

雄大に流れる信濃川の魅力や「令和の大改修」による大河津分水の事業効果をより広く知ってもらうため、様々な取組を行っています

信濃川・大河津分水写真コンテスト

信濃川の治水事業、環境保全等の必要性をより身近に認識していただく機会として、信濃川と大河津分水を題材にした写真コンテストを開催しています。

厳正な審査を経て優秀作品が選ばれ、その作品を流域自治体で巡回展示会を開催しました。



写真コンテスト表彰式



R6入賞作品

OHKOUZU day R6.8.23

大正11(1922)年8月25日に通水した大河津分水に感謝する1日として、通水100周年の令和4年度より開催しています。

令和6年度は、第二床固工事、山地掘削工事の現場からライブ中継によるバーチャル見学や、資料館からの夕景、ライトアップされた洗堰などのガイド付きナイトツアーを開催しました。



新第二床固工事



山地掘削工事 遠隔操作システム油圧ショベル

信濃川サミット R6.11.21

信濃川流域の小学生を対象に、信濃川やその支川などについて多様な視点から深く学ぶ学習支援と、学んだ内容やアイデア等を発表できる機会をつくるものです。

当日は7校の小学校児童が集い、約半年間に渡って学んだ成果や想いなどを発表し、交流を深めました。

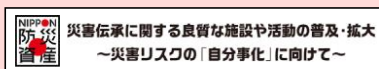


合格通水石の配布 R7. 1. 10

毎回大人気の数限定「合格通水石」配布も5回目。「諦めなければ通ずる」との願いを込め若手職員の手作りによる「合格通水石」と「特製カード」で、受験シーズンを迎えた受験生たちを応援しました。



NIPPON 防災資産 R6.9. 6



災害伝承に関する良質な施設や活動の普及・拡大
～災害リスクの「自分事化」に向けて～

信濃川大河津資料館を拠点とした地域活性化の取組が「NIPPON防災資産」に認定されました。



認定のポイント

- 横田切れ等の大水害を乗り越え、川との共生を模索してきた新潟の地域防災の原点として、近代から近年の新潟の災害の事実、挫折や失敗、苦労などの教訓を発信している。
- 見学の受け入れやガイド、防災教育等を通じて、洪水被害を乗り越えてきた先人達の想いや苦労を感じ、自分たちがすべき行動を考えてもらう取組を地域と連携しながら進めている。

防災講演会2024

2024年は中越中越大地震から20年、令和元年東日本台風時の洪水から5年という、災害発生からの節目の年となりました。各講演会を通じて、地域のみなさんへ災害の風化防止、地域防災力の向上を図る取組を行いました。

